

会員の皆様へ：年会費納入の情報：郵便封筒の宛名下の数字参照。2022は2022年度まで納入済み。

しのばず自然観察会より 2022-11 2022.11.01

2022年11月の活動 不忍池定点観察

集 合：2022年11月20日（日）午前10時 不忍池 蓮池南西端
緑の小旗あり（野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り） 今回は雨天中止
持 物：筆記用具、双眼鏡、雨具 飲み物、マスク、敷物、（昼食）
解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚 寒さ対策も！



不忍池がある台東区では、週当たりの新型コロナ新規感染者数は検査数の減少もあり、ピーク時7月下旬の1/8ほどになりましたが、新規感染率は30%弱で、昨年秋のような新規の感染者数・感染率ゼロには至っていません。一方、生活行動・レジャーなどは緩め放しで警戒感が薄れています。気を緩めることなく、感染防止に努めてください。

12月の活動予定 不忍池定例水鳥個体数調査

2022年12月18日（日）午前9時 不忍池 蓮池弁天堂南脇藤棚集合
（雨天実施、上野動物園の入場制限が再開した場合の平日への順延あり）の予定です。

2022年10月の活動 不忍池定点観察 より

10月9日（日）、曇り空で、夕方から雨という予報でしたが、11名が参加しました。雨は観察会中は降りませんでした。ハスの葉の緑が薄くなり、園路沿いの木や草の花もだいぶ減り、風はやや肌寒く、秋到来を感じさせられました。

蓮池はハスの葉で覆われ、水取りを見つけることができませんでした。ボート池では、ボートの合間を縫って泳ぐオナガガモがみつき、カモ類の渡りが確認できました。

弁天堂入口の都有地では、クスの大木を切り倒し、京成電鉄のトンネルから出て来る地下水を見える化していた水路をつぶしてつくった広場に、仮設テントが



オナガガモ 雄 換羽中

張られ、車を店舗にした飲食店が営業。発電機の音に、「東京都には騒音基準がないのかしら？」という声も。弁天堂の境内に入ると、いつもならちよっとわずらわしい沿道の食べ物売り屋台の列に、この日ばかりは「こちらは静かで、気持ち落ち着く」という印象を持ちました。

動物園池の島にあるコロニーへ戻るカワウの中には、腰のあたりの白斑が目立つ個体もいて、繁殖期が始まる兆候を示していました。

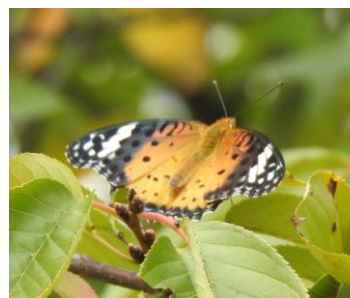
弁天堂南脇藤棚の岸辺に、誰かがタネを播いたのでしょいか、モロコシらしい植物が花を開いていました。

蓮池とボート池の間の園路では、ツマグロヒョウモンが花からサクラの葉上に移動したところで、皆ゆっくり見ることができました。

解散後のボート池の岸近くでは、コサギが餌を狙っているのが見られました。ボートが近づいても、しばらくは無視、岸辺に張ってあるロープすれすれの1m以下にボートが近づいたところで、池の南端に移動し、また餌を狙い続けました。



モロコシ?



ツマグロヒョウモン

10月の観察記録メモ 動物：カルガモ、オナガガモ、カワウ、オオバン、ダイサギ、コサギ、スズメ、ハシブトガ雌 ラス、ドバト、ヒヨドリ、クサガメ（亀）、コイ、アキアカネ、ナミアゲハ、キタキチョウ、ヤマトシジミ（蝶）、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、ホシホウジャク



コサギ

植物 開花：ノゲシ、雑種タンポポ（移入）、ヒメジオン（移入）、ツバキ類（移入）、アベリア（移入）、ワルナスビ、カタバミ、ヤブラン（移入）、シマスズメノヒエ（移入）、エノコログサ、キンエノコロ、アキメヒシバ？ オヒシバ、モロコシ（移入）、カヤツリグサ？ ヒメクグ？（移入？）

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL : <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円 ほかに行事参加費

**2021年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ。

10月9日の観察会から 小川千恵子

メヒシバ (女日芝) とオヒシバ (男日芝)

この日は9月11日の復習から始まりました。9月は集合地のそばで女日芝と男日芝の見分け方をKさんに教わりました。共にイネ科植物で、穂は3・4方に分かれており、女日芝は細くてプツプツと交互に実がつき、男日芝の穂は太くて両側にギッシリと実がついています。10月9日には、子どもの頃に女日芝の穂の1本1本を外側に丸く倒すように折り、その根元を別の1本でくくって「傘」を作って遊んだと多くの参加者から伺いました。私は、初めて知りました。女日芝はつゆ草と同じように茎の節々から根を出してふえるので、畑にとっては駆除が面倒な雑草の代表だそうです。

蓮

蓮は葉と実ばかりが目立ちます。水上音楽堂の前の蓮は手前だけが背が高く緑のまま、少し奥の方から向こうは背が低く、葉は少し薄茶色に変わっていました。9月の観察会ではKさんから蓮根は茎で、根は茎から出ているしょぼしょぼしたヒゲのようなもの、蓮の葉がついている長い枝に見えるのは葉柄(ようへい)と教わりました。

(小川潔からは、もう何度も教えているよと言われました。)

藤棚

小さい藤棚は花は無く、小さめの実がぶら下がっていました。8月、9月に見た花はTさんから「返り咲き」ということばをお聞きして、妙に納得しました。小川潔から、小さい藤棚は寛永寺のもの、大きい棚は東京都のものと説明がありました。従って、大棚の剪定は都が行ない、時々選定をしているそうで、まだ「近々選定をします」という看板はそのままでした。

キョウチクトウ 夾竹桃

水上音楽堂横の夾竹桃は、花びらが大きくて、プルメリアという園芸品種だとTさんに教わりました。まだ咲いていました。もう1本、普通の夾竹桃が、弁天堂を西に抜け北へ行くと、右手の落羽松の先にありました。これもまだ咲いていました。両方の夾竹桃はいつまで咲いているのでしょうか？なお、夾竹桃には毒があるそうです。

ヒガンバナ 彼岸花

流石に花は残っていません。我家の彼岸花も終わりました。朝、通学途中の小学生が「実に毒がある」と言っているのを聞いて、実(種子)は見たことがないので調べてみました。毒は彼岸花全部にあり、特に根は強い毒があるとのこと。実についてですが、彼岸花は染色体が33本の3倍体で、不稔性という特徴があって、クローンを作って子孫を残す形をとるそうです。要するに染井吉野と同じで、全国の花は遺伝的に同一で、同じ地域のものは、同時期に一斉に咲き、大きさや背丈も同じということです。秋分の日頃に花が一斉に咲いて、花が終わった後に葉が伸びる理由まではわかりませんでした。